

2020年 2月 17日

摂南大学大学院薬学研究科長 殿

審査委員 (主査) 大塚 正人  
(副査) 高松 宏治  
(副査) 奥野 智史  
(副査) 安原 智久



### 博士論文審査結果報告書

このたび、博士論文を審査しましたので、摂南大学学位規定第15条に基づき、下記のとおり審査結果を報告いたします。

#### 記

#### 1 学位申請者

栗尾和佐子

#### 2 論文題目

薬学生向けキャリア形成教育プログラムの教育効果向上のための実践的研究

#### 3 学位論文審査の要旨

申請者は、受動的な教育では養えない主体的に行動する力、思考力・判断力・表現力、課題発見・問題解決能力、教育力などの資質・能力を涵養する、6年制薬学教育に2つの実践的体験を伴う最適化された「キャリア形成教育プログラム」を構築し、その教育効果を実証した。その中には、体験実施前の学生に対する目標の提示、適切な事前課題の提供、実施後のフィードバックなどが学習者のパフォーマンスを向上させることも示されている。また、学習者のパフォーマンスの評価にルーブリックを用いることが、自己評価、教員評価ともに有効であることを明らかにした。以下に本学位論文の審査結果を示す。

摂南大学薬学部では、6年制開始初年度の2006年度より、医療人としての教養、実践力を低学年から段階的に身につける体系的な「薬剤師養成教育」を目指した。申請者は、その一環として「自己研鑽・参加型学習」を主とする全学年通じた「キャリア形成教育プログラム」を構築した。様々な実践的体験を通して、自身の資質・能力を育み、振り返る構成主義的学習観に基づいた取り組みである。これまでに薬学部においては、構成主義的なキャリア形成教育は検証を伴った実践例は乏しく、教育学的観点でのエビデンスも構築されていなかった。一方で、実践力を持った薬剤師を養成する6年制薬学部教育では強く求められることとなり、このような社会的要請に応じて、申請者はこの領域での先進的な取り組みを行った。本博士論文では申請者が携わったその

うち、「キャリア形成教育プログラム」のうち、3年次生対象の「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習（以下、体験実習）」および2年次生対象の「ピアサポート（上級生による実習支援）プログラム：1年次基盤実習支援」の2つについて記述している。これらのプログラムに教育効果を測る評価方法を導入し、教育効果の検証を行った。

1つ目の「体験実習」は、2008年度より開講され1年次の早期臨床体験と5年次の長期実務実習の間の「中期臨床体験」としての新たな取り組みである。「医師、看護師などの医療スタッフとの協働」や「地域完結型医療の推進」を円滑に行える薬剤師の養成を目的としたものである。6年制薬学教育が始まった当初は、薬剤師が病棟に配置されていなかった点と、当時、他の医療職養成課程を持たない本学学生が他職種と直接接する機会を確保するため、看護師の指導の下で患者や他の医療スタッフとの接点を持ちチーム医療に正統的周辺参加できるプログラムを構築した。また、ドラッグストア・保険薬局の体験実習では、薬剤師の指導の下で調剤を体験だけではなく、地域医療の実践を通して患者や地域の人と直接接し、社会のニーズを実感するプログラムを構築した。申請者は「体験実習」の実施方法を改善するとともに、その教育効果の検証を行った。病棟あるいはドラッグストア・保険薬局での体験実習終了直後に行った学生のアンケート調査や、体験実習の翌年に学生が作成したイメージマップの解析に基づいて、学生の体験内容を測定し、次年度以降の実施方法を改善することで、学生の主体性がより引き出され、課題発見・問題解決能力、薬剤師を目指す上での学ぶ意欲、自分自身のキャリアを考える力を涵養する効果的な学習プログラムを構築し、改善したプログラムを再検証する教育のPDCAサイクルを実践した。さらに、体験実習3年後の追跡アンケート調査より、実習の体験時の満足度が、大学への講義などに対する学習意欲や長期実務実習へのモチベーション、将来への関心度合を高めることも明らかにした。

2つ目の「ピアサポート（上級生による実習支援）プログラム：1年次基盤実習支援」は、2013年度から開講されており、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムで提示された、卒業時までには修得すべき「薬剤師として求められる基本的な資質」の1つである「教育能力」に焦点を当て、2年次生が1年次生の体験実習を指導・支援する教育体験である。実習終了後に支援する側の2年次生と支援される側の1年次生を対象にそれぞれアンケート調査を行い、2年次生に実習の知識や技能の修得、実習指導への積極性、学習意欲が涵養され、1年次生に実習の知識や技能の修得、実習の面白さへの理解が深まることを明らかにしている。実習支援後のレポートの内容分析から、指導者側に立った2年次生に思考・考察や課題発見・問題解決能力、行動力が涵養されることが明らかになった。また、実習用ルーブリックを用いた1年次生のパフォーマンス評価より、ピアサポートプログラムを通じた実習により、1年次生は、実習についての思考・考察や課題発見・問題解決能力が養われることを明らかにした。パフォーマンスのレベルを測る手法としての有用性が示された実習用ルーブリックの評価結果を用いたクラスター分析は、学生の学習傾向にあった教育を提供が可能であることも示した。

申請者の研究は、6年制への移行により大きく変化した薬学教育の開始時から、求められる次世代の薬剤師養成に必須となる資質・能力を涵養する教育の方略・評価を開発した。更に、それらに科学的手法による検証を加え、その結果をもとに教育プロセスにフィードバックを行い、薬学教育における近年求められる教育の質保証へ先験的な貢献を果たした。以上のことから、本論文は博士（薬学）の学位論文として相応しいものと認定した。